

〈序論〉

研究動機・目的・研究方法

ハンドボール競技におけるゴールキーパーはチームの防御の最終拠点となるポジションである。筆者は10年以上の間、そのポジションを務めてきた。その中で多くのゴールキーパーとゴールキーピングを目の前にし、技術を取り込もうとしてきたものの、取り込むことができなかった技術も数多く存在する。その要因として自分の中にゴールキーパーの技術を判断する明確な基準がなかったためだと考えた。そこで今後のプレーの向上、将来的にゴールキーパーを指導するにあたって自分の中に技術の明確な判断基準を設けたいと考え、本研究に取り組むこととなった。

本研究の目的は、サイドシュートのゴールキーピングにおいて、位置取りからミート動作への関連性の中で特にミート動作の部分に着目して運動観察し、類型化することである。その際、観察された運動現象をマイネル運動学における、運動モルフォロギー的に明らかにした。その方法としてビデオ映像による印象分析を中心に進め、運動を間主観的にとらえていく。研究対象は平成25年度全国学生ハンドボール選手権大会における上位に進出したチームのゴールキーパーとした。対象を学生とした理由として、学生という段階が高い競技力を定着させる段階であること、筆者自身が学生のプレイヤーであることがあげられる。そして、ここからサイドシュートのゴールキーピングの場面で、キーピングの成功・失敗にかかわらず典型事例となりえるゴールキーピングを印象分析に基づいて抽出し、分析・考察を行った。

〈本論〉

第1章 ハンドボール競技の構造特性

ハンドボールは互いのチームが様々な技術を駆使して、得点を一つでも多く獲得することをゲーム活動の目的としており、多面的な身体能力、スポーツ的達成能力を求められるスポーツである。またゴールキーピングの特性は攻撃面・防御面とわかれており、特に防御面において固有の技術が多く存在することである。そしてミート動作はゴールキーピング全体の主要局面となる部分である。その中でサイドシュートのゴールキーピングはシューターとの距離が近いために「運動の先取り」が重要であり、特有の駆け引きも観察することができる。

第2章 ゲームの運動観察法について

本研究ではゲームの運動観察方法として運動モルフォロギー的考察法を用いた。その際、運動共感と関連する他社観察の不可欠な前提条件となる印象分析を行っている。その中で、サイドシュートのゴールキーピングを観察する上で重要であると考えられる、マイネルの運動カテゴリーの中から特に「運動の局面構造」「運動の先取り」「運動リズム」「運動の正確さ」を用いて分析

を進めていく。ここでの「類型化」とは様々な事象の中から、類似点や共通点を抽出し、いくつかの類型に分けて普遍化することである。つまり、サイドシュートのゴールキーピングを観察していく中で、運動の類似点や共通点を抽出して構造体系を明らかにすることが本研究での類型化のとらえ方である。

第3章 研究結果

この章では、全日本学生ハンドボール選手権大会の試合の中で観察されたサイドシュートのゴールキーピングの印象分析とその結果の考察を行い、サイドシュートのゴールキーピングの類型化を試みた。その結果、以下のように分類することができた。

	位置取り	ミート動作	徴表
① 「スタンダード型」	シューターに対して正面	体全体をスライドさせる	各運動局面の「局面融合」により多種多様な形態に変化させることができる
② 「内誘い型」	シューターから近い側のゴールポスト付近をオープンにする	オープンスペースに手、または足を向かわせる	「運動の先取り」を正確に行うことで高いシュート阻止率を維持できる
③ 「外誘い型」	シューターから近い側のゴールポストに体を寄せる	シュートコースで体を面のようにし、ミートする	飛出しの際に急激な「運動リズム」のへんかがみられる
④ 「ループ叩き型」	シューターと至近距離に位置をとる	体を伸ばし、最高到達点でボールをミートする	「位置取りと構え」の局面の前に、「詰め」の局面が現れる

〈結論〉

本研究では試合におけるサイドシュートのゴールキーピングの運動経過を質的に観察し、考察することで大きく4つに類型化することができた。今回の研究を通して観察できたこととして、主に①ロングシュートと比較しての体のミートする部分の相違と②「運動の先取り」の重要性があげられる。①に関しては、サイドシュートはシューターとの距離が近いので、手の先でミートするよりも体全体を使って面を作り、キーピングをした法が効率的であるためと考えられる。②に関しては、どのようなシュートでも打たれてから反応してはキーピングが成功する確率は低い。そのため正確な「運動の先取り」がゴールキーピングの成功と深くかかわっていると思われる。こうして類型化することでゴールキーピングの技術を明確にすることは、技術の向上につながる。そして技術レベルの高いゴールキーパーは試合の場面だけでなく練習からチームに良い影響を与えると考えられる。(引用・参考文献省略)